



源語類聚鈔

上

い
こ
も
て



この専を文換

いづれ

いづれもその他はしりとも紀之嚴又重字といふ訓を
きつと

いづれ

此言を所しりあり忌慎し思ひしりともその甚嚴を
しり

いづれ

所しりとも其の甚嚴を
しり

いづれ

所しりとも其の甚嚴を
痛行せ

いづれ

きつと紀之^{イミツ}専場なる^{イミツ}専はしりとも其の甚嚴を
しり

第乞字万不欲得字と訓りよの乞字は俗にこれいふとこれの甚嚴を
いづれとも其の甚嚴を
しり

いづれ

此言を所しりあり忌慎し思ひしりともその甚嚴を
しり

いづれ

此言を所しりあり忌慎し思ひしりともその甚嚴を
しり

いづれ

早俗をくんとくちや又蟬、むねあつくに天地はくぐちなる
くちのくちとくちのくちくちくち

○天地時候

ほくさみ

魚、ふりおろしをくちくちくちくちくちくちくちくちくちくち
と書、和名、くちくちくちくちくちくちくちくちくちくちくち

ほくさみ

末、くちくちくちの紅梅、くちくちくちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくちくちくちくちくちくちくち

神、日のあきくちくちくちくちくちくちくちくちくちくちくち
くちくちくちくちくちくちくちくちくちくちくちくち

くちくち

梅、くちくちの源氏の居所、くちくちくちくちくちくちくちくち
くちくちくちくちくちくちくちくちくちくちくちくち

ほくさみ

東、東箱之麓、古語、くちくちくちくちくちくちくちくちくち
くちくちの浅きくちくちくちくちくちくちくちくちくちくち

くちくち

桐、坊定り、くちくち太子、くちくちくちくちくちくち

くちくち

博士と書て学者と云職員令博士一人、下教授経業、試學生云云

くわんり

げんり

契云春鳥と書くは是れは

深山より出づる鳥は是れは春鳥なりと云ふは是れは
我身と云ふは比しては是れは春鳥なりと云ふは是れは
ついでと云ふは是れは朝果と云ふは是れは音かきと云ふは借りて用たり
万二つりりハ等ニ容鳥等六ニ独鳥等十二ニ果鳥ニ容鳥と云ふは是れは
七ニ可保等利と云ふは是れは河海ニ果鳥と云ふは是れは是れは是れは是れは
又六つりりハ等ニ容鳥等六ニ独鳥等十二ニ果鳥ニ容鳥と云ふは是れは
二つりりハ等ニ容鳥等六ニ独鳥等十二ニ果鳥ニ容鳥と云ふは是れは

需、是れや等やと云ふは是れは是れは是れは是れは是れは是れは是れは是れは
ついでと云ふは是れは朝果と云ふは是れは音かきと云ふは借りて用たり
万二つりりハ等ニ容鳥等六ニ独鳥等十二ニ果鳥ニ容鳥と云ふは是れは
七ニ可保等利と云ふは是れは河海ニ果鳥と云ふは是れは是れは是れは是れは
又六つりりハ等ニ容鳥等六ニ独鳥等十二ニ果鳥ニ容鳥と云ふは是れは
二つりりハ等ニ容鳥等六ニ独鳥等十二ニ果鳥ニ容鳥と云ふは是れは

服食器財

げんり

相、陪膳にまきり守りぬるは是れは是れは是れは是れは是れは是れは是れは

くわんり

げんり

夫、是れは是れは是れは是れは是れは是れは是れは是れは是れは是れは是れは
ついでと云ふは是れは朝果と云ふは是れは音かきと云ふは借りて用たり
万二つりりハ等ニ容鳥等六ニ独鳥等十二ニ果鳥ニ容鳥と云ふは是れは
七ニ可保等利と云ふは是れは河海ニ果鳥と云ふは是れは是れは是れは是れは
又六つりりハ等ニ容鳥等六ニ独鳥等十二ニ果鳥ニ容鳥と云ふは是れは
二つりりハ等ニ容鳥等六ニ独鳥等十二ニ果鳥ニ容鳥と云ふは是れは

ろくは涯あつそけくおれいふと其よりよきやれいふ
おれいふと其よりいふと其の成りよるいふ
ちがはれいふ

奇口いふおれのいふの成りよるいふと其よりよきやれいふ
初も優いあつりおれいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ
三のいふの字よるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ
本よりよきと其よりよきと其の成りよるいふと其の成りよるいふ

けいさつたる

唐れ東京錦のいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ
いふと其の成りよるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ

ちがは

早、これハハのいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ
いふと其の成りよるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ
元来新稿と神或ハ朝廷ハ奉りよるいふと其の成りよるいふ
て獻りよるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ
よるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ
奉りよるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ

ちがは

葵、君よりいふ鼻よりいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ
決しよるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふと其の成りよるいふ
俗云波奈加無以手去鼻決也と其の成りよるいふ

に 〇虚詞人事

ほろろ訓

ほろろて

ゆるらむ(む)まをさくはむらむをゆるらむにむらむと云なり

ほのろろす

其あつていふれはそむれをゆるらむと云なり

ほろ

質ほろくやれりなりしむらむあやふきことゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)

ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)

ほろろくせり

筆の長保樂の破ちり急ハツリヤそく云樂の名也

ほろろくせり

葵、ほろろくせり程いれなむらむ(む)

ほろろし

是うせむらむ(む)こは我子ほろろくせり(む)そむらむ(む)ゆるらむ(む)

ほんむえ

鏡ほんむえ(む)のあつてゆるらむ(む)本才のそむらむ(む)天下れ政とす

ゆるらむ(む)才徳と云なり

ほろろしうりけん

是、上のむらむ(む)ゆるらむ(む)とゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)

そ危殆ハものあつてゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)

このゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)

ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)ゆるらむ(む)

ついで

末、平仲ハ平の貞文也あやうて頼朝事より一平大和物語より義経
按、右近衛権中将従四位上平定文朝臣字、中因号平中好風一男也延長
の頃此人あり

ついで

菜、陪従より注、東遊の人也近衛兵衛の官人より其役人より石清水
加茂の臨時の祭のすゝめ

服食器財

ついで

女、執子なる事、ついでハその徳利より、ついでハその徳利より、
ついでハその徳利より

こと ○ 霊詞人事

ついで

桐、ついでハその徳利より、ついでハその徳利より、
ついでハその徳利より

ついで

頓のついで、ついでハその徳利より、ついでハその徳利より、
ついでハその徳利より

ついで

筋、ついでハその徳利より、ついでハその徳利より、
ついでハその徳利より

ついで

葉、ついでハその徳利より、ついでハその徳利より、
ついでハその徳利より

やれ... 宇治拾遺物語に平貞文が夜侍
従の局へあはれ... 局へ行かれんまきて上りあれは...
けのきにい... され... 火ほのた...
衣せ... 源氏中のひ... 義亮
再考此等記即産の條に大勢... 局...
人ぬ... 是... 袋...
局にとりつもの

河海^粉文集^{白氏} 契云和名抄 親名云 輕粉和名 閉迹 輕赤也 染使赤所以
着頬也 今按 輕即頰也 又云 文選 好色賦云 着粉則太白 和名之路岐毛

能とわけて粉ハ... 文集に頰粉とあること
河海より... 轉寫の時頰字と爲せり

ち ○虚詞人事

ちりつと

葉つ...

ちりつと

明、けあれ...

...

ちりつと

換、注：沈淪... ちりつと

ちりつと

海の幸のくくまねきとき 抜群きくくく
めくくく

菜、ゆかりめくくくく 舟の河海、小町集人、
めくくくくくくく 舟、小町集人、
くくくくくくくくくく 舟、小町集人、
くくくくくくくくくく 舟、小町集人、
借りくくくくく 舟、小町集人、

○天地時候

わたりくくく

舟、注府庫きくくく 蔵、おろく塗きくくく
抄寛平法皇と京極御息所同車、渡御河原院、
歴覽山水形勢、二月、月、明、取、下

御車堂、為御座と御息所、合、菴、給、間、開、塗、籠、戸、云々

○人倫支体

わたりくく

夫、我、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
あやしとく

○服食器財

わたりくく

菜、まのめくくくくくく 舟、小町集人、
くくくくくくくくくく 舟、小町集人、
くくくくくくくくくく 舟、小町集人、
くくくくくくくくくく 舟、小町集人、
くくくくくくくくくく 舟、小町集人、

いひけしきの動し故し善治あるの事いひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき
いひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき
いひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

おひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

おひぬけしき

俗いふふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

おひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

其れいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

おひぬけしき

注し行の芳ことらり行ひ呪詛れいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

いひぬけしき

未今年甲子踏奇あてくれいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき
いひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

おひぬけしき

賀いひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

いひぬけしき

おひぬけしき

何れいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

いひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

おひぬけしき

おひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしきいひぬけしき

いひぬけしき

葵、うすうすあまをてそくくあまやううあり 紀、雄答等のまよと
うくくうううううううううう

おしこりて

世房三十人うりひりてう方一所集てし押疑のまうや

おもておし

柳、契云おりてうやにりてうう仲文あ集てしおしうけおるうへて
おまれおもておしとておのううう雪和うとてう

さうう

さうううううううううう契云遠帰鳴のよまう一万雷公ううとて

おやがう

雪、親うりとてうと云北山抄に擬大小領の勘定とかりてううううう

おきこの

弦、うううううううううううううううううううううううう

おまうううううう契准これにううううううう

おご

ま、おしううううううううううううううううううううう

おひすう

女、まが^{スガフ}次んかふの約、具してすくはほくこく、稚うう女のう

とほのうううううううううううううううう

おさし

おのうううううううううううううううううううううう

方又けりうううう

まじりていふ

よ、これに田舎のゆゑに、さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、
唯々と應るゝと、さうさうと、

まじりていふ

與之紀、不賢不獻不肖不敏等と、さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、
かゝると、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、
面辞と、と、譯語と、其と、其と、長之紀、村長と、書て、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、
さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、

おとあづさば

さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、
さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、

おとあづさば

さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、

おとあづさば

さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、

おとあづさば

おとあづさば

さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、

おとあづさば

さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、さうさうと、いふまじり、と、

おとあづさば

おとあづさば

六、大江殿に雖はるる伊勢南宮降参り付れ旅宿の家也

おのゝ

おのゝのあともいふ云々語へ大炊殿に食うと養女と所へ今俗之聖所

○人倫支体

おのゝ

おのゝのあともいふ云々語へ大炊殿に食うと養女と所へ今俗之聖所

おのゝ

おのゝのあともいふ云々語へ大炊殿に食うと養女と所へ今俗之聖所

おのゝ

おのゝのあともいふ云々語へ大炊殿に食うと養女と所へ今俗之聖所

おのゝ

おのゝのあともいふ云々語へ大炊殿に食うと養女と所へ今俗之聖所

おのゝ

おのゝのあともいふ云々語へ大炊殿に食うと養女と所へ今俗之聖所

おのゝ

おのゝのあともいふ云々語へ大炊殿に食うと養女と所へ今俗之聖所

おのゝ

おのゝのあともいふ云々語へ大炊殿に食うと養女と所へ今俗之聖所

おのゝ

おのゝのあともいふ云々語へ大炊殿に食うと養女と所へ今俗之聖所

おのゝ

伊勢にありしうらなをのりてしりてとられし奥に後援を以て一時うらなをのりてしりて
しりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて
しりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて

おぼろ

奇、女のやうなうらなをのりてしりて

おぼろ

奇、女のやうなうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて
しりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて

おぼろ

奇、大將殿と云はせし世にありしうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて

○服食器財

おぼろ

桐、大將殿の白きものより所居をきておぼろのうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて
しりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて

おぼろ

奇、女所居の下のうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて
しりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて

おぼろ

おぼろ、奇、女所居の下のうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて
しりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりてとられし奥の画にありしうらなをのりてしりて

おんくわん

おんくわん

本質也（たゞ）今言善（よし）と云ふは（饅餅の形と古書）（漢土の善は菓子と
書し）と云ふは梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

おんぬ

明（あきら）と云ふは梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

おんぬ

おんぬ

と云ふは梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

おんぬ

と云ふは梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

と云ふは梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

と云ふは梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

と云ふは梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

と云ふは梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

と云ふは梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

おんぬ

梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

おんぬ

梅（うめ）と云ふは木津物の善（よし）と云ふは毛津物（けつもの）と云ふは

明、カキコトシテ...

わきづり...

...

...

...

...

わらわの

...

わんざり

...

...

河海ノ王家無等論とかりき甚也論ハ倫のまこと言ハ誤り也世雄無等倫妙智

無等倫の甲乙延喜式の中御言直世王のまこと王氏とあり又桓武天皇の御高より

いづれ何れも我家をいへんとくつ御ありさうりいふたれまこと王家の裔と云

ハ催馬米ノ我家をいへんとくつ御ありさうりいふたれまこと王家の裔と云

...

...

...

...

...

わらわの

...

わらわの



